

	課題分析	授業改善策
技術・家庭	・構想図の学習を苦手とする生徒が見られる。完成図を思い描けずに学習が進めない状態となる ・学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、作業を丁寧に行うよう指導していく必要がある。 ・小学校の図工授業との違いについて気付かせ、目的に適した工具の選択や使用について学習させる必要がある。 ・「D 情報の技術」等では、授業内容を理解していても応用して実習課題を解決するための創造力が不足している。 ・技術科の授業だけではなく、学習内容に関連する他教科の学習を応用する意識や能力が不足している。 ・PC の基本的な操作方法は身に付いているが、自分で考えて応用する操作には習熟の差がある。	・実習での作業目標・内容を伝え、作業がうまく進められない生徒には個別的に指導を行う。 ・学習形態を工夫して、協力し教え合う態度を育てる。 ・作業の進捗に違いが出ないように製作進度を調整する。丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまづく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・ICT 機器やタブレット端末を活用し、視覚的な理解を深め、興味・関心が高まるような動機付けを行う。 ・生徒全員が達成感を得られるような作品になるよう、仕上げまでアドバイスを行う。 ・積極的に発言する、自分の考えを表現・発表する姿勢・環境を作る。 ・振り返りのレポート等の提出物チェック、実技テストも実施する。
	・自分の考えを書いたり、まとめたりする際になかなか取り組まない、適当に済ませてしまう生徒が見られる。 ・考えはしっかりと書けているが、挙手や発表ができない生徒が多い。 ・被服実習は苦手とする生徒が多いため、進度や習熟度に差が出ている。	・机間指導を行い、声掛けや助言をしながら生徒の考えを引き出したり、一緒に考えを膨らませたりしていく。 ・周りの生徒と意見交換・共有することで自分の考えに自信をもたせる。机間指導も行い、書いた意見に対して声掛けをしていき、発言しやすい雰囲気を作っていく。 ・苦手な生徒に対しては、基礎基本の定着を図るために個別指導、得意な生徒にはリトルティーチャーとして他の生徒の補助を行いながら、進度に大きな差が出ないようにする。